

ソフト ロボティクス への招待



KAST(公益財団法人 神奈川科学技術アカデミー)と慶應義塾大学は、リアルハプティクス技術の医療・福祉介護および産業への展開を進めています。

遠くの物体を、力を加減しながら操作することができるリアルハプティクス(力触覚の伝送)を慶應義塾大学の西大公平教授らが発明。その技術をロボットに組み込むことにより、人間のように器用でやわらかい動作を可能にするのがソフトロボティクス技術です。

私が実行委員長を務める第6回かながわ未来フォーラムは、KASTの「力を感じる医療・福祉介護次世代ロボット」プロジェクトリーダー 下野誠通氏(横浜国立大学大学院工学研究院准教授)をお招きします。皆様のご来場をお待ちしております。

と き：11月22日(火) 18:30開場 19:00開演

けんさく かながわ未来フォーラム

ところ：かながわ県民センター2階講堂(横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2)

インフラ管理を 見直す契機に

県が所有するすべての建物、道路などの都市基盤施設、水道・発電事業等に係る公営企業施設の多くが高齢化しています。

それらの維持更新にかかった費用は過去6か年の平均で年間約707億円。今後30年間の合計では約3兆円、年平均で約1,005億円と現状の約1.4倍に増大します。

極めて厳しい財政状況の中で、どのように県民の安全・快適な生活を支える社会インフラを維持・管理していくのか。県は今年度末をめざし、公共施設等総合管理計画を策定中です。



Asahi
Policy
Digest

神奈川県議会議員

おの でら 慎一郎 しんいちろう

月刊 おの でら 慎一郎 2016年11月号

〒241-0821 横浜市旭区二俣川2-58-12 Sビル2F

<http://www.onodera-s.com> <http://twitter.com/#!/onodylan>

ご感想をお聞かせください!◎Mail:info@onodera-s.com◎Fax:045(442)8101◎Tel :045(442)8100





県議会 定例会 より

■発達障害等の児童生徒へ音声教材を普及

通常の教科書では文字や図形等を認識するのが困難な発達障害等の児童生徒に対し、国はパソコン等の端末を活用して学習する音声教材（デイジー教科書）を無償提供するなどして普及に力を入れています。しかし、本県においてはその活用が一部にとどまっていることから、全県下の小中学校に活用を広げるべきと提案しました。

今後、県教育委員会では県内の市町村教育委員会の指導主事に対し、音声教材の基本的機能や効果のほか、利用申請の仕組みを周知し、児童生徒一人ひとりのニーズに、よりの確に対応した支援教育の充実に努めていくことになりました。

■県警察、新型速度測定機の導入を検討

道幅が狭い道路では違反車両を止める場所がなく、速度取締りが困難でした。オービス（自動速度測定機）は、違反車の運転者やナンバーを自動撮影し、後日、運転者を呼び出します。公明党は、通学路など生活道路を子どもや高齢者が安全に通行するためにも、小型の自動速度測定機を活用し速度取締りを強化すべきと提案。県警本部長は、他県で導入例がある新型速度測定機について導入を視野に入れ、速度取締りの強化を図っていききたいと答弁しました。

■新しい学びの場として夜間中学の新設を検討

県教育長が夜間中学の新設に向けて前向きな姿勢を示しました。県教育委員会が各市町村教育委員会とともに設置した「中学校夜間学級連絡協議会」では、今後の方向性として、新たに夜間中学を設置することを含め、夜間中学のあり方について引き続き検討し、本年度中に最終的な方向性を定める予定です。折しも、教育機会確保法が成立し、不登校の中学生も夜間中学の受入れが可能に。なお、県内の長期(180日以上)不登校生徒は1125名に上っています。

■県版「電子母子手帳」を世界に発信

神奈川県「電子母子手帳」が話題になっています。公明党は、その多言語化と海外展開について提言。県は、①外国籍県民の方にとっても、より使いやすいものになるよう検討 ②協力関係を構築しているWHO（世界保健機関）とも連携を図りながら、「電子母子手帳」の取り組みを、神奈川モデルとして、世界に向けて積極的に発信していくと答えました。世界の子どもの命を守る壮大な取り組みになるだけでなく、登録者から得られた「ビッグデータ」を活用して、予防医療等にも貢献できるものになります。